

参加無料

素敵なプレゼントを
ご用意しています
数に限りがございます

ドキュメンタリー映画上映会
～ 家族のきずな ～

ちづる

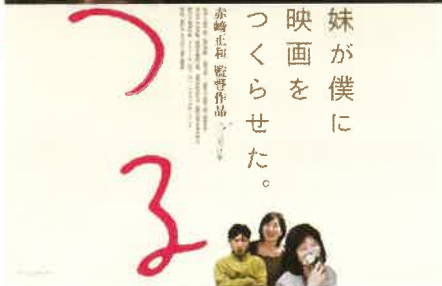
2019年1月12日(土)

受付：午後0時30分～

開演：午後1時～午後3時15分

会場：南区役所 2階 講堂

(公共交通機関でお越しください)



【映画 “ちづる”】

“妹のことをどう説明したらいいかわからない。だから言葉で伝えるかわりにカメラを向けることにした”

重度の知的障害と自閉症を持った妹・千鶴とその母を1年に渡り撮り続けたみずみずしくも優しい家族の物語。

【監督講演】

現在、福祉施設の現場で働いておられる経験の話から、障害のある方もない方も、ともに生きる地域づくりについて語っていただきます。



主催：南区障害者基幹相談支援センター、南区役所、南保健センター、南区社会福祉協議会

協力：東亜合成株式会社名古屋工場

問い合わせ先：南区役所福祉課 TEL 052-823-9392 FAX 052-811-6366



妹のことをどう説明したらいいかわからない。
だから言葉で伝えるかわりにカメラを向けることにした。

劇場公開の予定が決まらないうちにTV、新聞等マスコミでひと際注目を集めている作品がある。立教大学現代心理学部映像身体学科の赤崎正和が監督したドキュメンタリー「ちづる」。自身の卒業制作として企画されたこの映画は、重度の知的障害と自閉症をもった赤崎の妹・千鶴とその母を1年に渡り撮り続けた、みずみずしくも優しい家族

の物語である。最も身近な存在でありながら正面から向き合えなかった妹にカメラで対話した監督は、映画を撮り終える頃、家族との新しい関係を築きあげている自分に気づく。作者の精神的な成長がいみじくも映像に刻印されてしまった稀有なドキュメンタリーの誕生。“若さ”が成し遂げた映画の奇跡がここにある。

制作、配給、宣伝はすべて立教大生が担当。大学の教員と学生が映画界に挑戦！

「ちづる」は、配給・宣伝の面でも異例の体制でのぞんでいる。赤崎の指導教授であり大ヒットドキュメンタリー「蟻の兵隊」の監督・池谷薫を中心に現役の立教大生が映

画公開における全ての業務に果敢にチャレンジ。インディペンデントならではの怖いもの知らずが日本映画界に一石を投じる！



自閉症とは…… 先天的な脳機能の障害のために発達期にさまざまな行動特性が明らかになる。人によって障害の現れ方は異なるが、他者とうまくコミュニケーションがとれない、視線を合わせにくい、周りの雰囲気を感じ

た行動ができない、同じ行動や動作を繰り返す、特定の物や場所に強いこだわりがある、といった特徴があげられる。最近ではアスペルガー症候群も含めて自閉症スペクトラム障害という場合が多く、100人に1人程度いると見られている。

ちづる

<http://chizuru-movie.com>

監修・脚本：赤崎正和 | 製作：池谷薫 | 撮影：赤崎正和・赤崎久典 | 録音：石山智弘 | 音楽：内池芳和 | 音響効果：鈴木利之 | HD編集：梅学 | 撮影管理：水上ゆき | 予告編制作：岩崎伊津子 | デザイン：渡辺 潤 | HP作成：中山敏子 | 宣伝アドバイザー：市川 真 | 監督：内山登紀夫(よこはま発達クリニック・横浜大学教授) | 協力：立教大学校友会 | 配給・宣伝：「ちづる」上映委員会



PRO DEO ET PATRIA 立教大学のオフィシャル・シンボルの中に書かれているラテン語です。直訳すると「神と國のために」ですが、立教大学では「普遍的なる真理を探究し、私たちの世界、社会、個人のために」ととらえ、そのために働くことのできる「専門性に立つ教職人」の育成を、本学の教育理念としています。

南区障害者自立支援連絡協議会とは…

南区内に暮らす障がいのある人たちが、その人らしく地域の中で豊かに暮らしていくことができるよう障害福祉に関わる機関及び障害者団体等がお互いに協力し合い、障がい児・者福祉の向上を目指し、福祉の輪が広がることを目指して運営されています。

◎ ひまわり横丁 ※ホールにて
南区の授産製品販売。(縫製品・刺し子製品・小物・焼き菓子など)

◎おもちゃ図書館 ※第2会議室にて